



〈雑録〉『日本経済叢書』ノ刊行二就テ

福田，徳三

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 16(2):279-296

(Issue Date)

1914-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052164>



雜 錄

『日本經濟叢書』ノ刊行ニ就テ

法學博士 福田 德 三

此度内田文學博士及河上教授ト相圖リ學友瀧本誠一君、半生ノ苦心ノ結果タル『日本經濟叢書』刊行補助ノコトヲ企テタルニ未ダ之ヲ世上ニ公表セザルニ先チ篤學ノ士ニシテ予輩ニ私信ヲ寄セテ其詳細ヲ聞カンコトヲ求メラル、モノ一二ニシテ止マラズ予輩ハ先ヅ事ノ始ニ方リ此種ノ同情ト熱心トノ爲メニ少カラザル刺戟ヲ受クルコトヲ感謝セザルヲ得ズ依テ茲ニ右刊行ヲ決定スルニ至レル事情ノ一端ヲ開陳シテ右等同情各位ニ酬キ兼テ經濟學ニ志アル世上同好ノ人士ニ此計劃ニ對スル援助ヲ請ハント欲ス。

西洋ノ經濟學ノ我邦ニ輸入セル以前我邦ノ學者ガ經濟生活ニ關シ如何ナル思想ヲ懷キ居タルカラテ當ラントハ苟クモ歴史の傾向ヲ有スル現今ノ經濟學ヲ學ビタルモノ、一樣ニ希望シテ止マザル所ナレドモ太宰春臺ノ經濟錄荻生徂徠ノ政談等ノ外ハ人ノ知ルモノ誠ニ稀ニシテ先年東京經濟雜誌社ニ於テ鹽島仁吉君等ノ校訂ニカ、ル右經濟錄、政談外ニ大學或問、草茅危言ノ四書ノ出版アリテ僅カ

ニ吾人ノ渴望ヲ醫スルニ止リ其他ニハ内田博士ノ若干ノ論文殊ニ最近同博士發見ノ馬場正通ノ貨幣論ト河上教授ガ先年國家學會雜誌ニ公ケニセラレタル白石、梅園、宣長、山陽等ノ經濟學說評論トアルニ止レリ然レドモ此以外ニモ猶若干ノ經濟論著ノ存在ス可キコトハ想像ニ難カラザリシモ如何セン西洋經濟學ノ輸入ニ寧日ナキ我等ハ之ヲ窺知スルニ道ナキニ苦メリヴエンクステルン教授嘗テシユモラー氏年報ニ太宰春臺ノ經濟論テフ一文ヲ公ケニシテ經濟錄中食貨篇ノ大要ヲ紹介セラレタルコトアリノツクス氏(兩三年前我邦ヘ再遊ノ途次朝鮮ニ於テ病歿セラレタル篤學ノ宣教師ニシテ永ク我邦ニ滯留宣教ノ傍ラ和漢ノ書ヲ耽讀セラレタル仁ニシテ予ハ神學叢書第一編ニ故北村透谷氏ト共ニ氏ノ『インスピレーション』論ヲ邦譯シタル緣故アリ幼年ノ折ヨリ深ク氏ノ學風ニ私淑シ居レリ)亦日本亞細亞協會報告中ニ白石ノ學說ヲ紹介セラレタルコトアリト雖モ我等邦人進ンデ先進ノ學業ヲ外國ノ同學ニ紹介スルコトハ殆ンド之レアラザリキ支那ニ就テハ孟子ノ經濟學說(Economic wind of Mencius)ナル書美以美教會ノ出版社ニテ刊行セルモノアリ近クハ某支那學者ノ孔子經濟學說ノ大冊(大著トハ云ハズ)米國ニテ出版セルモノアリ外國ニ於テモ東洋經濟思想ノ發達ヲ知ラント欲スル要求ハ漸ク強カラントスルノ狀アリ最近ニ於テ内田博士ガ獨逸文ヲ以テ公ケニセラレタル古代支那社會思想史ノ一節ハ極メテ簡單ナルモノ乍ラ恰モ此需要ニ應ズルモノトシテ彼邦學者ノ珍重スル所タリシガ如シブレンタノ先生常ニ予ニ教ヘテ云ハル、樣卿日本ニ歸ラバ更ラニヨリ多ク日本支那ノ經濟史ト經濟思想史トヲ外國人ニ紹介スルノ任アルヲ忘ル、コト勿レト而モ歸來十數年予

ニ於テ何ノ爲ス所ナキ實ニ汗顔ニ堪ヘザルナリ然ルニ此度瀧本君ノ日本經濟叢書ヲ得而シテ内田河上兩先進ノ協力ノ下ニ多年ノ宿望ヲ實現スルヲ得ルニ至レルハ予一人ニ取リテモ終生ノ會心事ナリ予ハ内田河上兩君ノ教ノ下ニ瀧本君ノ助手トナリ筆生トナリ校正係トナリ凡百ノ俗務之ニ當リ一切ノ卑事之ヲ辭セズ予ノ現在ニ於テ有スル微力ト學務ノ餘暇トノ全部ヲ傾倒シテ右刊行ノ大成ヲ期セント欲スルモノナリ。

先ヅ始メニ瀧本君ノ學問ニ就テ一言スルヲ許サレヨ瀧本君ノ名ハ多少ナリトモ經濟學ノ研究ニ志ザシタルコトアル人士ノ銘記スル所ニシテ殊ニ東京經濟雜誌ノ愛讀者ノ忘レザル所ナル可シ同君ガ故田口卯吉博士ト經濟學ノ根本問題ニ關シ論戰セラレタルハ予等ガ經濟書ノ四五冊ヲ辛フジテ讀ミ終リタル頃ニシテ予ハ熱心ニ兩者ノ論旨ヲ追從シツ、自己研學ノ上ニ少カラザル益ヲ受ケタリキ爾來同君ハ日本經濟學史ノ研究ニ没頭シテ公ケノ論壇ニ登ルコト稀ナリシカバ却テ今日ノ青年學士ノ中ニハ同君ノ名ヲ知ラザルモノアリ此度叢書ノコト人ノ聞ク所トナルモ寧ロ予等ノ補助ト云フコトニ着目スル人多キ由ナルガ予ハ之ヲ案外事ト思惟セザルヲ得ザルナリ瀧本君ハ我邦現存經濟學者中歴史派ノ思想ヲ最モ早ク我邦ニ傳ヘタル先覺者ニシテ假リニ田口天野兩博士ヲ以テ明治經濟學前期ノ代表者ト認ムレバ瀧本君ノ名ハ明治經濟學後期ノ第一頁ニ登錄セザル可カラズ此點ニ於テハ金井博士ト『コンテムポラリー』ト云フモ不可ナシ否クニースノ深遠ナル思想ヲ咀嚼シ紹介シテ歴史派經濟學ノ眞意ヲ傳ヘタルニ至テハ明治後期ノ第一人タリ而シテクニース竝クリツフシスリー研究ニ始

レル同君ノ歴史の傾向ハ爾來殆ンド三十年不斷ノ發展ヲ經過シテ終ニ日本經濟叢書ノ大成ヲ告グルニ至レルモノニシテ其由來スル所甚ダ久シキナリ。而シテ此間ニ於テマタ最モ早く瀧本君ノ學問ノ眞價ヲ認メタルハ實ニ河上教授ニシテ教授ガ日本經濟學者評論ニ早ク指ヲ染メラレタルハ其結果ナリ予ハ同君ノ名ヲ耳ニスルコト既ニ二十年ノ久シキニ涉リシニ拘ラズ同君ト學交ヲ訂スルニ至レルハ最近四五年以來ノ事ニシテ古書尋討ノ同好ノ故ヲ以テ異レル軌道ニ馳リツ、アリシモノ終ニ相逢着シタルナリ而シテ予ノ同君ニ謁シタルトキノ第一會話ハ實ニブレンタノ先生ノ『ギルド』論ニ就テナリキ同君ハ予等ガ先生ニ師事スル久シキ以前ニ於テブ先生ノ『ギルド』史論ヲ耽讀シ大ニ其說ヲ賛シツ、アリタルナリ同君ノ歴史派經濟學ニ於ケル予ハ賛ヲ執テ師事セザルヲ得ザルナリ君ノ西洋經濟學ニ於ケル既ニ此クノ如シ然ルニ其東洋經濟學ニ於ケル研究ニ於テハ前ニ往者ナク後ニ來者ナシ學界獨歩ノ壇場ヲ占領スルモノト云フ可シ日本經濟史支那經濟史ガ我内田博士ニ始マルガ如ク日本支那經濟學史ハ瀧本君ニ於テ始マル此點ニ於テ十九世紀ノ初頭伊太利經濟學叢書ヲ大成シタルクストヂ又ハ英國經濟文獻ヲ編纂シタルマカロツク獨逸經濟學史ノ著者ロツシア等ヲ比較ス可キカ而シテ此度刊行ス可キ日本經濟叢書ハ世界經濟學ノ二大寶典タルクストヂノ全集ギョーマン(デー・ル氏編)ノ全集ノ二者ニ比シテ其費サレタル勞ト其網羅ノ汎キト點ニ於テハ勝レリトモ劣ルコトナシト信ズ。

サテ叢書刊行ノ計劃ハ初メ瀧本君獨力ヲ以テ『日本經濟論抄』ト題シテ公ケニセラル、案ヲ立テラ

レ先ヅ其序論トシテ『日本經濟學說の要領』(吉川弘文館發兌)ナル書ヲ作ラレタリ此書ノコトハ嘗テ本誌新刊批評欄ニ紹介シ置キタレバ讀者或ハ記憶セラル、コトナラン然ルニ大部ノ書ノコト、テ瀧本君ニ於テ自費出版ヲ企テ得可キニ非ズサリトテ營利的出版ノ目的物タルコトハ更ラニ難事ナレバ同君ニ於テ寶庫ヲ抱イテ空シク憾ヲ懷カル、ノミ而シテ同君ノ蒐集セラレタルモノ稀書珍籍多ク萬一火災ニ罹ラバ永久ニ恢復シ難キ損失タル可シ茲ニ於テ河上教授百方盡力ノ結果京都帝國大學法科ノ經濟學研究室ニ於テ數百金ヲ投ジテ殆ンド其全部ヲ謄寫シ今ヤ少クトモ複本一部ヅ、ハ安全ニ保管セラレアル事トナリ東京大學ニ於テモ亦一部ナリトモ謄寫セシメ置カントノ議山崎高野諸博士ノ間ニ熟シ居タリト聞ク而モ謄寫ノ費用最低ニ見積ルモ猶數百圓ヲ要ス可クシテ其校合訂正モ亦容易ノ事ニ非ズ若カズ其出費ヲ敢テセンヨリハ印刷公行ノ事ヲ促進スルコトハ同人ノ彌々痛切ニ感ゼシ所ナリカ、ル間ニ京都法科大學ニ於テハ試ニ日本經濟史ノ科外講義ヲ臨時ニ開設シ瀧本君ハ聘ニ應ジテ京都ニ赴キ數週間ニ涉リテ同大學ノ篤志學生ノ爲メニ講筵ヲ開カレ他方ニハ又タ同文館出版ノ經濟大辭書中ニ内田博士監修ノ下ニ日本經濟學說ニ關スル項目ヲ増加シテ瀧本君河上教授田崎商學士其他諸士ノ執筆ヲ乞フアリ一步一步日本經濟學史ニ關スル研究進步シツ、アリ而シテ叢書刊行ニ就テハ右ノ關係ヲ以テ同文館員ニシテ經濟大辭書ノ編纂主任タル鹽谷瀧作氏ノ盡力ヲ以テ先ヅ同文館ノ事業トシテ經營シ得ルヤ否ヤノ調査ヲ試ミ種々考案ヲ立テタレドモ營利會社タル同館トシテハ終ニ引受ケ難シトノ結論ニ到着シ予等ハ失望落膽極リナカリシモ涙ヲ吞デ時機ノ熟スルヲ待チツ、ア

リシガ恰モ河上授教留學ノ途ニ上ラル、ニ會シ内田博士最モ此事ニ心ヲ用キ此機ヲ以テ大體ノ案丈ケナリトモ立テ、河上君外遊後我々ニ於テ繼續進行ス可キ基礎ヲ作り置カント盡力セラレタル結果兎ニ角收録書ノ目錄ヲ決定スルコトヲ第一トシ次ニ刊行ノ方法ニ就テ種々協議シ恰モ上京中ナリシ内田博士ト瀧本君ノ許ニ會合シテ漸ク第一次ノ暫定目錄ヲ作り上ゲタルトキ幸ニモ同文館員ニシテ其後他ニ轉職シタル某々兩氏過去ノ經驗モアリ又タ出版ノ事ニ趣味ヲ有スルノ故ヲ以テ本務ノ傍刊行會ヲ組織シテ會員ニ配本スル方法ナレバ多額ノ經費ヲ要セズ又タ別ニ事務員等ヲ雇傭スル必要モナカル可ケレバ其方針ニ一決スルナラバ刊行ノ事務的方面一切ヲ引受ケント申出デラレ瀧本君ニ於テハ之ヲ承諾セラレ乃チ『日本經濟叢書刊行會』ヲ作り爾來目錄ノ加除修正ニ伴ヒ前後三回假目錄ヲ印刷シテ各自調査ヲ進メ最後ニ舊冬十二月初旬終ニ確定ノ目錄ヲ完成シテ之ヲ印刷ニ附セリ而シテ此ク確定シタル目錄ハ瀧本君當初ノ案トハ稍著シキ相違ヲ見タリ其故ハ瀧本君元來ノ企ハ『論抄』ノ名ノ示メスガ如ク主トシテ拔萃ヲ蒐成シ之ヲ各事項ノ下ニ分類編次スルニアリシガ此クテハ折角ノ珍書稀本ノ全諦ヲ見ル能ハザルコト、ナリ日本經濟學說大成ノ趣意ヲ達スルニ於テ憾ナキ能ハズ仍テ難白ノ嫌ハアルコトナガラ總テ原本全文ヲ翻刻スルコト、シ事經濟問題以外ニ涉ルコト往々之アルモソハ自ラ讀者ノ判斷ニ任スコト、シ(尤モ最終卷ニ總索引ヲ附シテ自ラ分類編次ト同一ノ便宜ヲ備ヘン考案ナリ)大體ニ於テ經濟事項ニ關係アル書ハ刊本寫本ノ別ナク之ヲ著者別ノ下ニ編次シテ網羅スルコト、ナシタルガ爲ナリ斯ク全文ヲ收録ス可キ書ハ本多政信ノ『本佐錄』(一名治國大概)

ヨリ福住正兄ノ『報德學内記』ニ至ル三百九種ナリ外ニ別集トシテ三宅也來ノ『萬金產業袋』以下小田穀山ノ『越風石臼歌』ニ至ル五十五種ハ専ラ童蒙教訓的ノ通俗書ニシテ嚴密ニ所謂經濟論書ニハアラザレドモ却テ這裡ニ當時ノ經濟思想ヲ窺フ可キモノ尠カラザレバ之ヲ收録シテ大成網羅ノ趣意ヲ實ニスルニ遺憾ナキヲ期シ又タ附録トシテ瀧本君當初ノ考案タル抄録文ヲ集メタリコハ其書ノ大體ハ經濟書ニ非ザルモ書中經濟問題ニ涉リテ著者ノ思想ヲ見ル可キモノアル節ヲ瀧本君自ラ拔萃抄節セラレタルモノニシテ藤原惺窩ノ舟中規約林羅山文集中ノ外國書等ヲ始メ仁齋、素行、益軒、蕃山、白石、芳洲、東涯、徂徠、春臺、昆陽、錦城、宣長、梅園、淇園、竹山、履軒、守重、與清、山陽、艮齋、東湖、靜軒等諸家ノ經濟論ヲ一目ノ下ニ編纂シタルモノナリ。斯クテ合計四百三十四種ノ書ニ涉リ或ハ全文ヲ以テシ或ハ抄録ヲ以テ本叢書之ヲ網羅集成ス可キ計劃ナリ（別ニ著者略傳ヲ添フ可シ）但シ著作權者ノ承諾ヲ得ルニ夫々手續ヲ要シ而シテ其承諾ノ與ヘラレザルモノ絶無ヲ保シ難ケレバ自然其種ノモノハ之ヲ割愛スルコト、ナル可ク一切ヲ活版ニ組ミテ凡ソ一萬六七千頁（目錄ニアル四百三十四種全部ヲ刊行スルトキハ二萬四五千頁ニ及ブ可ケレドモ）トナル可ク最近概算ノ結果ニテハ一萬八千頁ナリキ先ヅ凡ソ六百頁二十四冊即チ約一萬四千頁ハ其最低限ト認ム可キカ。刊行ノ順序ハ進行上差支ナキ限リ目錄順ヲ追フ筈ニシテ其順次ハ大約著者生存時代ト其書ノ著作又ハ出版年代トヲ勘合シテ古キヲ先ニシ新シキヲ後ニシタレドモ其年代ノ確知シ得ザルモノ少カラザレバ決シテ『クロノロジカレー』ニ精確ニ排列シタル次第ニハ非ズ唯我邦ニ於ケル經濟思想發達ノ大勢ヲ

順次ニ知リ得可キ様配合シタルナリソレトテモ刊行ノ都合上（例セバ漢文ハ印刷ニ手間取ル可ク又著作權者ヨリ回答ナキカ又ハ出版ニ異存アリテ交渉ヲ要スル場合モ必ズ之レアル可シ）其次第ヲ前後スルコト或ハ免レ難カラント思ヘリ。（著作權者ニ於テ此點ヲ諒トシ可成迅速ニ且同情ヲ以テ承諾ヲ與ヘラレンコトハ之ヲ切望セザルヲ得ズ）刊行會事務主任者ノ談ニヨレバ會員數三千近クモアレバ豫定ヨリモ頁數ヲ増加スルコトヲ得可キモ一千名ニ達セザルトキハ到底豫定ノ頁數ヲ配本スルコト困難ナル可シトナリ予等ハ先ヅ會員一千名ヲ得バ出來得ル丈ケ豫定通り實行スルコトヲ慫慂シツツアリ本誌ノ讀者希クハ同情ヲ注ギ會員數ノ可成多カラシコトニ援助ヲ賜ハラシコトヲ熱望ス。之レ我等ノ私事ニ非ズ實ニ日本經濟學ノ面目ニカ、ルコトナリクストヂ氏全集ハ二十六行組三百頁内外五十冊ヨリ成リ、ギョーマン全集ハ七、八百頁十五冊ヨリ成リ前者ハ先年予ガ伯林ニテ購ヒシモノ百五十麻克後者ハ現下ノ古本賣價三百麻克内外ナリ（クストヂ集表紙ノ定價表ヲ見ルニ一冊八「リ」レ「ヨリ十」リ「レ」即チ參圖乃至四圓ヲ以テ發兌シタリ）然レバ一萬頁以上ニ涉リ日本經濟學ヲ集成シタル此叢書ノ爲メニ四五拾圓ヲ費ヤスコト必ズシモ難事ニ非ザル可シ。

猶編纂一切ノ事固ヨリ瀧本君獨力ヲ以テ之ニ當タラル、コトニシテ君ニハ公私共ニ何等ノ俗務學務ノ纏綿スルコトナケレバ時間ノ全部ヲ叢書ノ爲メニ抛タル、コトナリ校合其他ハ適當ナル學者ヲ煩ハシテ精確ヲ期ス可キコト勿論ニシテ京都ニ於テ内田博士海外ニ於テ河上學士ハ絶ヘズ助言助力セラル可シ而シテ經濟學攻究會ノ會員諸士今ヤ概ネ贊助員タルコトヲ承諾セラレタリ叢書ハ嚴ニ學

間的事業タラシメントスルモノナレバ所謂知名ノ士ノ庇護ヲ特ニ請願スルコトヲ爲サズ純學問團體タル經濟學攻究會員諸彦ヘノミ呈書シテ贊助ヲ乞ヒ置キタルナリ而シテ他方東京帝大經濟科諸教授ノ盡力ニヨリ同經濟統計研究室主催ノ下ニ叢書所收書原本ノ展覽會ヲ東京帝大内ニ開催ス可ク既ニ總長閣下ノ承認ヲ經ラレタリト傳聞ス然レバ本年一月若クハ二月右展覽會（或ハ支那經濟書モ同時ニ陳列スルニ至ル可キカ）ノ事アル可キカト思惟ス。

今左ニ瀧本君ノ編纂例言ノ數節ヲ摘記シテ同君ノ志ノアル所ヲ示サン。

一余ハ曩ニ德川氏十五代三百年間ニ於ケル經濟學說ノ源流ヲ搜リテ、日本經濟學史ナルモノヲ著サントシ、苦辛多年、業未ダ成ラズト雖、其ノ蒐集シタル材料ハ、今ヤ漸ク積ンデ余ガ書室ニ充滿セリ、而シテ爾來一々獵涉ノ次、其ノ著者ノ經濟學說ヲ窺フニ足ルベキ比較の完全ノ良書及ビ其ノ要ヲ摘ンデ抜抄シタルモノ、既ニ數百部ノ多キニ上レリ、依テ先ヅ其ノ一部分ヲ選擇シテ、此ノ書ヲ編成シ、以テ我が舊時代ニ於ケル學說ノ一斑ヲ世人ノ紹介セント欲ス、然レドモ取捨詳略、一ニ本史著作ノ參考ニ資スルノ目的ニ出タルヲ以テ、此ノ類ノ叢書トシテハ固ヨリ遺漏少カラザルベシト信ズ

一此ノ書ハ元來部門ヲ設ケ、學說ヲ分類シテ、編次スルノ目的ナリシニ、其ノ之ニ着手スルニ當リ、舊時代ノ學者等ハ固ヨリ明晰ナル秩序の頭腦ヲ有セザルノミナラズ、特ニ今日所謂經濟學上ノ觀念ニ乏シキヲ以テ、一編ノ所說中ニ、種々雜駁ノ事項ヲ論議シ、其ノ間殆ンド分類

スベカラザルモノ多クシテ、強テ之ヲ分類セントスレバ、一編ノ論文ヲ處々悉ク寸斷シテ、支離滅裂ニ至ラシメ、却テ其ノ所說ノ眞面目ヲ失スル恐アルヲ以テ、遂ニ分類ヲ斷念シテ、各々其ノ著者ノ下ニ之レヲ輯録スルコト、セリ、其ノ編纂法ノ非學問的ナルハ余ノ遺憾トスル所ナリ。

一舊時代ノ政治經濟書ハ著者及ビ其ノ子孫門人等、概ネ之ヲ秘シテ人ニ示サズ、唯ダ僅ニ寫本ヲ以テ傳ハルモノ多ク、隨テ魯魚焉馬ノ誤ヲ免レザルノミナラズ、或ハ數語ヲ脫シ數節ヲ闕キタルモノアリ、又或ハ全篇ノ文辭甲乙悉ク相違スルモノアリテ、其ノ間、孰カ是ニシテ孰カ非ナルヤ、明ニ判別シ難キモノナキニアラズ、依テ余ハ成ルベク、異本ヲ對照シ正シキヲ取リタルモ、猶一々照查ヲ經ルコト能ハザルモノアリ、要ハ著者ノ意見ノ大體ヲ知ラシメンコトヲ期スルノミ。

一本書ヲ發行スルニ際シ、編纂補助ヲ諾セラレタル諸先生ガ余ガ爲メニ種々ノ注意ヲ與ヘラレ、編纂ノ方法良書ノ選擇等ニ付實際多大ノ勞ヲ賜リタルハ余ノ深ク感謝スル所ナリ、然レドモ節取抜抄ノ事ハ固ヨリ余ガ一己ノ私見ヲ以テ從事シタルモノニシテ、補助諸先生ノ責任ニアラズ、故ニ其ノ煩蕪粗略ノ責ハ余ノ獨リ自ラ任ズル所ナリ。

サテ右ノ如キ經過ノ下ニ調製シ得タル本叢書ノ目錄ハ單ニ刊行目錄タルニ止ラズ或意味ニ於テハ『日本經濟學文獻總目錄』トシテ少クトモマカロツクノ Literature of Political Economy ト同一視スル

ヲ得可キカ即チ讀者ハ此目錄ヲ一瞥スルニヨリテ我邦經濟書ノ割合ニ豐富ナルコトヲ直チニ看取シ得ベク同時ニ之ヲ座右ニ置カバ古書尋討ノ際若干ノ便益ヲ得ルコトナラン仍テ茲ニ貴重ナル紙面ノ割愛ヲ乞ヒ其全文ヲ左ニ轉載ス而シテ讀者中此目錄ニ收ムル以外ノ維新前學者著作ノ經濟書アルヲ存知ノ仁ハ小生宛(東京、千駄ヶ谷七五六)其書名ト其書ノ在箇所トラ一報セラレンコトヲ希望ス此クノ如キハ瀧本君半生ノ大事業ヲ大成スル所以ニシテ亦タ學界ノ德トスル所ナル可シト信ズ。

附記 日本經濟叢書刊行會宛先ハ神田區駿河臺鈴木町ナリ。

日本經濟叢書總目錄

著者	書名	著者	書名	著者	書名
本多政信	本佐錄	淺見綱齋	識割錄	荻生徂徠	太平衡策
無名氏	豐年稅書	田中邱隅	民間省要	同	度量衡考
山崎闇齋	盡微問答	新井白石	經邦典例序	山下廣内	同上
宮崎安貞	農業全書序	同	奧羽海運記	山下宗節	山下筆記並追考
熊澤蕃山	大學或問一名經濟辨	同	畿内治河記	西川求林齋	町人靈
毛利貞齋	孟子井田辨	同	新令句解	同	華夷通商考
中根璋	律原發揮	同	建	佐藤信景	土性辨
中村惕齋	律尺考驗	同	室鳩巢	同	山相秘錄
貝原益軒	家道訓	同	衆山麗澤秘策	同	農家貫行
同樂軒	農業全書附錄	同	同	同	田祿圖經
山中某氏	恆產記	同	同	同	老農類語
		荻生徂徠	政	陶山鈍翁	老農類語
		同	鳩巢上言錄	同	同

土生熊五郎	同	司馬江漢	冢田茂喬	佐藤信季	同	同	松平樂翁	同	同	同	同	湯淺明善	細井平洲	龜井道載	樋口好古	同	利根川教豐	山名文成	本居宣長	大塚孝威	下駄屋甚兵衛
葵不恤緯	船舶考	春波樓筆記	末黒のすゝき	漁村維持法	堤防溝洫志	培養秘錄	資治清要	國本論同附錄	政有論語	庶有論語	物價論	天明大政錄	嚶鳴館遺草	肥後物語	牧民忠告	參定指南	農隙餘談	農家訓	秘本玉くしげ	救時策	書上
植崎九八郎	菱川大觀	龍草盧	長久保赤水	同	高澤鶴鳴	早川八郎左衛門	中井竹山	同	同	無名氏	山本時亮	古屋普陽	大野當寬	最上徳内	蒲生君平	山縣大貳	中井履軒	同	同	同	立松東蒙
上名緒言書	正名緒言	節儉論	禮記地理王制圖說	年貢考	稅賦考	久世條教	草茅危言	社倉私議	經濟要語	獨愼俗話、一名白木屋管店書	福藺神考	詢葛邇言	止戈正統	度量衡說	今度新書	柳子新論	年成錄	浚河茅議	均田茅議	華胥國物かたり	商人論語帳
無名氏	柴野栗山	古賀精里	同	同	同	三木量平	同	星野葛山	鈴木武助	海保青陵	同	同	同	同	同	高橋保永	川島信清	茅原定	山片蟠桃	馬場正通	同
經濟隨筆	上封事	十事	封事	經濟文錄	軟荻偶語	井田附言	同	田制沿革考	農古論	稽古談	善民談	洪範談	上經濟錄	勝手經濟錄	商人軍配記	茅窓漫錄	夢の代	造幣策	邊策和	邊策發	同
筆	封	解	事	錄	語	言	義	考	諭	談	談	談	書	錄	記	錄	代	策	辨	勝	勝

松井羅洲	神武不殺篇	新宮涼庭	破レ家ノツ、クリ話	藤田東湖	土着の議
塚田多門	滑川談	日吉偉三	田制派源考	長島仁左衛門	不算得失
三野元密	伍家制令詳解	下坂隆	經地解義	大石久敬	地方凡例錄
黑田玄鶴	田畝里程考	佐藤信淵	混同秘策	秋田十七郎	算法地方大成
井上四明	經濟十二論	同	經濟要錄	志賀理齋	三省錄後篇
小町雄八	自脩篇	同	農政本論	原德齋	遠藤通
釋雲解	生財辨	同	垂統秘錄	同	救荒便覽前後續
橋本敬簡	經濟隨筆	同	內洋經緯記	同	廣惠篇像解
龜田鵬齋	富國雜議	同	田畝年中行事	大關爲孝	富貴自在集
同	黍稷稻粱辨	同	責難錄	栗田圖南	地方大成斥非問答
小西篤好	農業餘話	同	物價餘論纂書	仁井田好古	富國存念書
堤正敏	商道九篇 同國字解	同	鑄造化育論	同	稽古篇
託靜翁	衣食訓	同	致富小記	同	儲德略訓
藤田一正	勸農或問	同	經濟問答秘記	無名氏	保國話
小宮山昌秀	農政座右	同	農政學解嘲	同	婦毛登の土
友部直夫	井田集覽	同	天明錄	大久保仁齋	富國強兵問答
小宮山昌秀	勸農策	同	經濟問答秘錄	大草公明	咬菜百倣錄
武元立平	勸農の松策	同	武家七德後篇	山崎成美	農家必讀
無名氏	千歳の松	同	家職要道	田崎吉茂	農業自得
山田松齋	警稻性辨	同	田園地方紀原	伊地知季安	西藩田租考
同	經典穀名考	同	朝川善庵	廣瀨淡窓	同附錄
古賀穀堂	平論勢	同	大鹽平八郎	帆足萬里	東潛夫論
丹羽易	平理策	同	藤田東湖	上下富有の議	同

鹽谷世弘	丙丁燭戒錄	吉田松蔭	庸醫譚同譚餘	伊達千廣	大勢三轉考
無名氏	皇朝丙丁龜鑑	同	儲模話	同	紛雪辨
山縣禎	民政要編	大橋淡雅	保福秘訣	竹尾正胤	大帝國論
神惟孝	草茅危言摘議	同	營生秘簿序	豐田天功等	大日本史食貨志
無名氏	田園式目	同	富貴自在	栗田寬	千代田問答
豬飼敬所	洪範說	德川景山	みかけあふき	無名氏	救急或問
穗井田忠友	中外錢史	岡本通理	振濯錄一名源流	安井息軒	租調考
石井光致	修身辨	岡本信克	通俗振濯錄	三浦千春	古今田制通考
東條一堂	井田說	釋忍阿	治本策	船橋愨信	地方新書田制部
佐藤一齋	經濟略記	珍養間人	邊鄙以知吾	清宮秀堅	田制考
大江季弘	經濟五策	伊藤馨	大慾辨	橫山由清	食貨志略
色川東海	經濟新論	勝田獻	經國無是問答	無名氏	沽價考
藤森弘庵	新地圖解抄	佐久間象山	上上書	同	准布考
同	當務適言	高島秋帆	上上書	岡田明義	市津料考
會澤安	下學適言	羽倉用九	三律摭要書	色川御蔭	無水岡田開闢法
同	草偃和言	吉本伍駕	百姓話訓	西村兼文	貨幣輕重論
大橋訥庵	嘉永隨筆	無名氏	和良久壽	無名氏	本朝物價表
草間直方	三貨圖彙物價志	加藤高文	地方大概集	無名氏	本朝地方春秋
瀨尾柳齋	板兒錄	一色重熙	續日本史食貨志	長柄莊彦	收米權上書
齋藤拙堂	救荒事宜	四季園花翁	史記食貨傳國字解	無名氏	米錢考
釋雲洞	救荒孫之杖	矢野玄道	獻芹譴語	同	政民善訓

無名氏	滄浪夜話	飯塚生清	田畑重寶記	手島堵庵	町人身體なをし
居不居士	爐邊心話	上原無休	五穀無盡藏	同	有べかゝり
無名氏	食貨志	中川有恒	米恩錄	同	町人身體はしら立
同	仙臺風談	兒島如水	農稼業事	脇坂義堂	民の繁榮
同	鹿兒島誌	大藏永常	同後篇	同	銀のなる木の傳受
肝付七之進	東北風談	同	農家益篇	同	かれもうかる傳受
富田高慶	報德論	同	同後篇	同	福相になるの傳受
同	報德記	同	同續篇	無名氏	渡世肝要記
齋藤高行	報德外記	同	農具便利論	同	同二編
岡田良一郎	活法經濟論	同	農家調寶記	同	子孫繁昌心得草
同	報德富國論	同	農家調寶記二篇	伊藤芳脩	子孫寶草
福住正兄	富國捷徑	同	同續錄一名豐稼錄	寒河正親	子孫鑑
同	二宮翁夜話	同	同續錄一名除蝗錄	西宗庵一翁	整政豐年記
同	報德學内記	同	同附錄一名除蝗錄	關一樂翁	冥加訓
(以上ノ書籍中著作者又ハ發行者ノ 認諾ヲ得ザルモノハ之ヲ除ク)					
別集	三宅也來	萬金產業袋	河野剛	醉吟居主人	宮負定雄
江島屋其磧	商人職業訓	加藤在止	太平國恩里談	農家備要	鶴殿長快
無名氏	百姓姓訓	八隅中立	利運	民家分量記一名百姓談	大玄子
砂川野水	農術鑑正記	常盤貞尙	我津衛	同	無名氏
東白	賣買出世車	手島堵庵	同	同	同

三宅也來	萬金產業袋	河野剛	醉吟居主人	宮負定雄	農家大集	土屋巨禎	丹羽伯享	鶴殿長快	井上鶴洲	大玄子	無名氏	同
江島屋其磧	商人職業訓	加藤在止	太平國恩里談	農家備要	鶴殿長快	井上鶴洲	大玄子	無名氏	同	同	同	同
無名氏	百姓姓訓	八隅中立	利運	民家分量記一名百姓談	我津衛	同	同	同	同	同	同	同
砂川野水	農術鑑正記	常盤貞尙	我津衛	同	同	同	同	同	同	同	同	同
東白	賣買出世車	手島堵庵	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

町人身體なをし	有べかゝり	町人身體はしら立	民の繁榮	銀のなる木の傳受	かれもうかる傳受	福相になるの傳受	渡世肝要記	同二編	子孫繁昌心得草	子孫寶草	子孫鑑	整政豐年記	冥加訓	世和多理草	家業相續力草	鸚鵡問答	肝要工夫錄	卜筮貨殖考	商家秘錄	古今八木相揚帳	八木相揚追考
---------	-------	----------	------	----------	----------	----------	-------	-----	---------	------	-----	-------	-----	-------	--------	------	-------	-------	------	---------	--------

第十六卷 (二九六) 雜錄

『日本經濟叢書』ノ刊行ニ就テ

第二號 一〇六

桃ノ夢ノ代ノ如キ是ナリ。
總テ是等ノ體例一定セザルハ便宜上勉メ
テ傳來ノ署名ヲ其儘ニ蹈襲シタルニ據ル
看者幸ニ其ノ杜撰ヲ咎ムル勿レ。

村山漢自覺錄
會澤安迪纂編
大橋訥菴恐惶神論
小山田與清松屋筆記
賴山陽新策
同通議
安積良齋良齋問話
同同續
藤田東湖常陸帶
藤田東湖東湖隨筆
寺門靜軒靜軒一家言
山田方谷方谷遺稿
日吉偉三牛半蛙鳴

(以上ノ書籍中著作者又ハ發行者ノ
認諾ヲ得ザルモノハ之ヲ除ク)

本書目ノ著者欄ニ掲ゲル氏名ハ必ズシモ
其書ノ著述者又ハ編纂者ニアラズ、門人
又ハ他人ノ記述若クハ編纂ニ係ルモノア
リ、例ヘバ山崎闇齋ノ盡微問答・室鳩巢
ノ兼山麗澤秘策等はナリ。
又之ニ反シ其ノ内容ノ大旨ハ他人ノ意見
ヲ述ベタルニ過ギザルモノモ往々其筆者
ヲ著者トシテ標記スルモノアリ、新井白
石ノ奥羽海運記・畿内治河記又ハ山片蟠